

# 異文化コミュニケーション場面にみられる共話の種類

笹 川 洋 子

## An Analysis of “Co-construction” Discourse Strategies in Inter-cultural Communication

Yoko SASAGAWA

キーワード：異文化コミュニケーション 共話 ディスコース

### 1 はじめに

共話とは二人以上の話し手が、共同で発話を作ることである。次の共話例1では、二人の話者が、通常一人の話者が表現する発話「週にたった2コマしかない授業をさぼってきてしまった」を、二人で分担し、一文を創りあげている。このJF8の先取り発話による共話では、聞き手は話し手の言わんとすることを予測し、先取り発話をするが、そのためには会話の参加者が同じことを予想し、同時想起をする必要があると言われる。

<例1：日本人女性JF3とJF8の行う一文を創りあげる共話>

JF3：週にたった2コマしかない授業を //hhhhhhh//そうそうそう

JF8：さぼってきてしまった//hhhhhhh//

このような話し手が話し終わらないうちに口をはさむような現象、すなわち割り込みや、発話の重なりは相手の発話を阻害するものとされてきたが (Sacks, 1974, Levinson, 1983他), 近年日本語の会話の割り込みや発話が重なるオーバーラップには、この例のように、話し手と聞き手が会話に能動的に参加し、相手への共感を示す、協調的な割り込みやオーバーラップがあることが指摘されている (水谷, 1995, 黒崎1995, 堀口1997他)<sup>1)</sup>。これらの相手への協力を示す発話に、水谷に習い「共話」という言葉をあてることにする。

共話は、表現形態から先取り発話 (堀口, ibid.), オーバーラップ発話 (久保田善彦, 西川純, 2002), 「言いさしー割り込み」発話 (荻原, ibid.) として分析されている。

しかし、次の例2, 例3のような発話は予測による先取り発話、割り込み、オーバーラップ発話のいずれにも属さないが、相手に共感を示す、共話の一形態として考えられる。例2は母語話者と非母語話者の意味の修復過程で現れる発話である。アメリカ人男性 (EM1) の「エドコ」という言葉を手がかりに、EM1と日本人女性 (JF1) が「江戸っ子」という言葉にたどり着く、修復過程が見られる<sup>2)</sup>。

<例2: アメリカ人男性EM1と日本人女性JF1の修復による共話>

EM1: そ、あの東京で生まれたんですか?

JF1: はい。ずーと東京にいますhhh

EM1: How'dyou say東京エドコ Is that all rightエドコ, 東京 yeah

JF1: えエド? え東京?

EM1: //東京で生まれた//江戸っ子。

JF1: // あっ江戸っ子 //

また、例3は日本人女性どうしの共話だが、大学の受験料をめぐって、JF6の「①うーんいくらつぎ込んでるんだかみんな」という発話に、JF7が「②確か受験料ってバカにならないんですよね」という発話を添え、共感を示す。さらに、JF6も「③ならないですよね。W大に3万5千円あげちゃうしっていう」と続け、これに対しJF7も「④ねーほんとに」と共感を示す表現を返す。ここでは①の発話に続き、②～④の共感を示す発話の連鎖が見られるわけであ

る。これは明らかに話者どうしが協力して、会話を創りあげる共話の一形態と  
いうことができよう。二人の会話はこの後も「大学の受験料の高さ」をめぐる  
変奏曲のように共話の連鎖を続ける。日本人女性の会話データを見ると、切れ  
目なく会話が続くという印象を受けるが、これは共話の連鎖が途切れることな  
く続くためであろう。

<例3：日本人女性JF9とJF6の会話における共話の連鎖>（大学の受験料の話題）

- JF9: 確か受験料ってバカにならないんですよね  
JF6: うーんいくらつぎ込んでるんだかみんな  
JF9: ねほんとに。あたしの年まで。  
JF6: ならないですよ。W大に3万5千円あげちゃうっていう  
JF9: =3万だったのかな //確か//  
JF6: あっ//そう//なんですか//hhhほんとにじゃああたしから上がったのかな  
JF9: うんなんか //うん//なんか高くなったとか言って はい  
JF6: 3万5千//円// そうそうふーん  
JF9: うんうん  
JF6: 二とか三つとかみんな学部受けるのに 私は1コしか受けなかった・・（続く）

本稿では、冒頭で示した、話者が共同で一文を創る共話の形態に加え、異文  
化コミュニケーションの場面で話者どうしが行う共話の形態の多様性を探る。

なお、共話は会話の背景知識を共有できる友人どうしの会話で起こりやすい  
と言われる。しかし、D. Tannen (1984) は言語文化的な背景が異なる友人ど  
うしの英語の日常会話を観察し、親しい友人どうしであっても、話者の言語文  
化的な背景が違えば、会話で起こる協力を現わす事象、例えば協調的な割り込  
みやオーバーラップの現象の評価に齟齬があることを明らかにしている。つま  
り、共話を親しさの表現とみなす文化とそうでない文化の話者が出会った場合  
には、同一言語文化圏に属する者どうしとは違った会話現象が起こる可能性が  
ある。そして、対話者の背景知識が相違し、しかも初対面の話者による異文化  
コミュニケーションでは共話が起こりにくいと予想されよう。しかし、日本語  
による会話を分析した先行研究では、TV やラジオ番組などの日本人どうしの  
会話（堀口, ibid.）方言による談話（黒崎, ibid.）、日本語学習者どうしの自  
由会話（堀口, ibid.）と同じように、インタビュー場面における日本人対日

本語学習者の会話（萩原，2002.）という異文化コミュニケーション状況でも共話が見られたという調査結果が報告されている。ただし，これらの調査はそれぞれ異なる会話状況で行われており，また分析話枠組みも異なる。同じ条件の会話状況において，同文化及び異文化コミュニケーションで起こる共話の違いは明らかにされていない。そこで，ここではまず，日本人女性どうしの会話における共話を観察し，次に，日本人女性・男性と初対面の中国語話者及びアメリカ人英語話者との日本語による異文化コミュニケーション状況で起こった共話について検討していくことにする。

## 2 会話に見られる共話とは

まず調査の概要を述べ，次に本稿で扱う共話の範囲に触れたい。

### 2.1 調査の方法

日本人女性6人を中心に，彼女たちがそれぞれ初対面の話者と語る時，どのように言語方略を変えるかという視点から，1994年に計54組の対面会話データを収録した。今回はこのデータのうち彼女達と日本人女性3人（JF）との1対1の会話6組と，同じく中国人女性3人（CF），中国人男性3人（CM），アメリカ人女性3人（EF），アメリカ人男性3人（EM）と日本人女性が対話する24組の異文化コミュニケーションの会話，日本人男性（JM）と外国語話者との異文化コミュニケーション会話12組，計48組の会話を分析する。会話時間は約20分で，話者は自由に話をしている。会話計16時間の中で起こる共話を取り出し，資料とした。日本語学習者のレベルは4人の調査者が判定した。EF1とEM1は初級後半のレベルであるが，その他の日本語学習者は中級後半から上級の学習者である。

本稿では，日本人男性と比べて，日本人女性どうしの会話では共話が起こりやすいと言われるが，日本人女性どうしの会話で起こる共話の型が，異文化コミュニケーション状況でも現れるかどうかを見て，質的な違いを探った。結論から言うと，先行研究では同文化及び異文化コミュニケーションの双方の状況で共話が同じように観察されたと報告されているが（堀口 *ibid.*，萩原 *ibid.* 参

照), 本研究でも日本人どうしの会話で見られた共話の型は異文化コミュニケーションでも観察され, しかも母語話者と同じように日本語学習者も共話を創る役割を担っていた。それでは, まず日本人女性どうしの会話に現れる共話の型について確認しよう。

## 2・2 本稿でとりあげる共話の範囲

次の例4でも、話者は、前の発話が終わった段階で、共感を表現する発話を添えていく。日本女性（JF7）が「：マスコミみんなマスコミ好きなんですよー」と話す。これに相手の日本人女性（JF2）は「んーすごいね」で同意の発話を添え、さらに、JF7の「あーでも疲れそうっていうか酷使しそう身体を」という感想に対しても、JF2は「面白いんでしょうけどねー」と共感を示す発話を添えていく。

JF7: マスコミみんなマスコミ好きなんですよーねー あーでも疲れそうっていうか  
 JF2: んーすごいね(●) んー  
 JF7: 酷使 しそう身体を ん ふーん  
 JF2: なんか 面白いんでしょうけどねー んー

「助け舟型」,「言い換え型」,「共感型」に分けている。ただし,この分類だと,一文で完結する共話も,いくつかの文の連鎖で表現される共話も同じカテゴリーに分類されてしまう場合がある。そこで,本稿では,まず,二人の話者が一文を創る共話と,話者がいくつかの文を加えて,発話の連鎖を作る共話を分けた。日本人女性どうしの会話で観察された共話には,堀口(1997)や黒崎(1995)があげている,一文構成型や文を添加する型の他にも協調的な共話のストラテジーとして,発話単位では,あいづちやパラフレーズ,励ましや誉めの表現,謙遜に対する否定表現などが現れた。同様に,共話はディスコースという大きな発話単位でも起こっている。会話を構成するディスコース・レベルでは,共感表現の増幅や,共話の機能をもつ発話を連鎖させる,別の話題に出た内容を引用し,言い換える,さらには協調的な話題を提示するという現象を見い出すことができた。ここでは,副次言語や発話行為方略などをストラテジーとして用いる共話,相手の言葉を先取りしたり,共感を示す共話,共話の連鎖を作る共話,話題を交互に扱う談話レベルの共話に分け,初対面の日本人女性どうしの会話でみられた共話の類型を次のように整理した。

<日本人どうしのコミュニケーション場面に見られる共話の類型>

- (1) 笑い,あいづちやパラフレーズ等により共感を示す共話
- (2) 文の後半をもう一人の話者が引き継ぎ,完成させる共話。(先取り型,共感型,言い換え型など) <共話例1>
- (3) 推測等により相手の言うべき文を添加する共話(補足型・共感表現・言い換え型等) <共話例4>
- (4) 共感を表現する以外の,励ましや誉め,謙遜表現に対する否定など,より積極的に発話行為により相手と協調関係を志向する共話
- (5) 相手が言葉を思い出せず,言いよどんでいる時に,文を引き継ぎ助ける共話。母語話者と第二言語学習者との会話で起こりやすい,意味の修復のためのやりとりも含まれる。(助け舟型) <共話例2>
- (6) 意味の修復以外に単純な話者交替ではなく,何度か,ターンを交換しながら,共感を示す発話が連鎖する。発話連鎖による複雑な共話 <共話例3>

(7) 自分側，相手側の話題領域に配慮し，自分の話題と相手の話題を交互にとりあげる談話構成のレベルでの共話

次に，日本人女性どうしの会話で見られたこのような共話の類型が，異文化コミュニケーションの場面で見られるかを探っていくが，このうち，(2)の一文を創る共話については，笹川（2004）で<sup>3)</sup>，(4)の助け舟型の共話のうち，意味の修復の共話については笹川（2003）で詳しく考察したので<sup>4)</sup>，ここでは参考として触れる程度に留め，それ以外の共話の類型について観察することにする。

### 3 異文化コミュニケーション場面に見られる共話の類型 I

#### ーあいづちやパラフレーズなどの副次言語による共話

まず，笑い，あいづち，パラフレーズ，オーバーラップにより共感を示す共話例を示す。なお，ここでは，異言語文化圏の話者が共話の担い手となる例を中心にとりあげる。

##### (1) 笑いやあいづちを用いる

例 5 では，アメリカ人男性と日本人女性の笑いの呼応とアメリカ人男性の「うんうんうん」というあいづちが共話で観察される。

<例 5：アメリカ人男性 EM1 と日本人女性 JF2 の共話> （授業のテーマの話）

EM1:僕はuh-最近(●)How'd you say?社会文化，比較文化社会のところをとった でも

JF2: うん

EM1:=経営学に(●)にー関係は全然なかった，ちょっと難しかった その

JF2: うーんそうですね

EM1:カオス(●)//の話// hhhh

JF2: //うーん//ahahahahhhじゃあ全然哲学ですね それじゃカオスだと

EM1:うんうんうん哲学philosophy

JF2: うーん。ですね

##### (2) パラフレーズをする

例 6 がマンドリンの練習で指の形が変わったという日本人女性 JF4 の言葉を受け，中国人男性 CM2 は「マンドリン向きの指」を繰り返すことで，共話を作り出している。ここでは笑いの呼応も見られる。





JF4:

EF2:論文は書きながらあの一就職活動と大学院の願書もやらなければならないんですよ

JF4:あーじゃあ忙しいですよねhhhhhhhhhh

EF2: 忙しいhhhhhhh

ここでは、異文化コミュニケーション場面で見られた、笑いやあいづち、パラフレーズ、オーバーラップによる会話の協調を考えてきた。なお、Tannen (ibid.) はニューヨークに住む英語話者のうち、ユダヤ系の話者はオーバーラップによって熱心さを表わし、つまり共話を行おうとするが、アングロサクソン系の話者にはオーバーラップは共話の指標とはならないことを見出している。話者の属する言語文化圏によってオーバーラップの評価は異なるわけだが、この調査ではさまざまな話者が協調的オーバーラップを行っていた。

次に、共感を示す文を添えていく共話の型を観察してみよう。

#### 4 異文化コミュニケーション場面に見られる共話の類型Ⅱ

##### ー共感を表わす文を添加する共話

共話の代表的な例としては、冒頭にあげた二人の話者が一文を創りあげる共話があげられる。しかし、さらに聞き手と話し手の発話への関わり方として、新しい文を添えるという共話の方法がある。ここでは、この発話付け加え型の共話を、予測による相手の発話の先取り文を添加する型、共感表現を添加する型、共感を示す意見を付け加える型、新しい情報を付け加える型、相手の発話を別の表現で言い換える型、先取りの回答をする型の6つに分けた。

##### (1) 予測により相手の言うべき文を付け加える

相手の言いたいことを予測、先取りし、発話を添える型である。冒頭で挙げた一文を創る型の典型であるが、文を添える形式でも見られた。例9では日本人女性JF1が「早くテストが始められる」と先取り発話を行っている。

<例9：中国人女性CF1と日本人女性JF1の共話> (中国語の名前について)

CF1：中国人の場合はなんとなくひと文字でいいのとhhh聞かれるのhhh

JF1： そうですよね。

CF1： そうですね。だから試験の時/そうこうとう/答案用紙に

JF1: すごい, うん, 短いから

CF1: =すごく楽なの//hhh// //そ, そ, そ//

JF1: //hhh//早くテストが//始められる//

先取り型は日本人女性の会話に多く見られるが, 次の例10では中国人女性 CF2 が日本人女性 JF3 の習った項目を予想し, 先取りの発話を添えている。

<例10: 中国人女性CF2と日本人女性JF3の共話> (JF3の中国語の勉強について)

JF3: 理系の大学っていうのは, あの—一緒にお仕事しててその人とかにちょっと習ったけど

CF2:

JF3: そうそうそう

CF2: ニーハオとかジャイジェンとかシェイシェイとか

## (2) 共感を示す感情表現を加える

相手の言いたいことを同時想起し, 予測を示す型の共話とは異なり, この型では共感を表現する発話が添えられる。例11ではアメリカ人男性 EM1 の「すごくきれい」という言葉に対し, 日本人女性 JF1 は「一度行きたいですよ」と希望を表現する。

<例11: アメリカ人男性EM1と日本人女性JF2の共話> (EM1が夜景が好きだと話す)

EM1: 香港行ったことある? //すごくきれい// うんそうすごく//きれい//

JF1: あ—ないです//100万ドルの夜景// //一度//行きたいですよ

また, 例12の共話の担い手は中国人女性 CF2 である。CF2 は「大変でしたね—」, 「漢字大変でした」と重ねて, 共感を示す発話を添えている。

<例12: 中国人女性CF2と日本人女性JF4の共話> (日本の子供達の漢字学習の話)

JF4: 日本はやはり最初に平仮名なんですよ。それから小学校に入って漢字を 覚えるんですよ hhhh

CF2: 漢字

JF4: 大変//hhhhh// //huhuhuh//へえ— ( )

CF2: 大変でしたね—hhh //hhhhh//漢字大変でした//huhuhuh//

## (3) 共感を示す意見を加える

同じ共感を示す表現でも, 単なる感想ではなく, 自分の意見を添える共話の型がある。例13では, 中国人女性 CF2 の発話に対し, 日本人女性 JF3 が「ま, ゆっくりゆっくり」と自分の意見を添えている。例14でも, JF3 は自分の意

見を示す発話を連鎖させている。

<例13：中国人女性CF2と日本人女性JF3の共話> (CF2の勉学の話)

CF2：何をやるか未だにわかんない//hhh//来年になってから

JF3： //hhh// ま、ゆっくりゆっくり。

<例14：中国人女性CF2と日本人女性JF3の共話> (北京の町の工事の話)

CF2：どこ行っても工事やってて

JF3：そうね特に空港から行く途中ずっと工事ばかりよね

なお、日本人女性だけではなく、例15のアメリカ人男性 EM2、例16のアメリカ人女性 EF3 も自分の意見を添え、協調的な会話を創り出している。

<例15：アメリカ人男性EM2と日本人女性JF4の共話> (サンフランシスコと霧について)

JF4：1回だけあのゴールデンブリッジを見た時だけ急に今まで晴れていたのにそこだけ霧になって

EM2：あっそうね。ときどきはとってもいい雰囲気が出るでしょ

<例16：アメリカ人女性EF3と日本人女性JF5の共話> (日本の大学生たちの勉強ぶりの話題)

EF3：今勉強ですごく忙しいですか 量とか時間としては

JF5： でもやっぱり高校の時のほうが大変だった

EF3： うん

JF5：そうなんか大学に入っちゃえば 一生懸命やる人はやるけど手をむこうと思えば

EF3：ええ、あとアルバイトをしたり旅行をしたりするでしょ。

JF5：いくらでも手を抜けちゃうhhh

EF3：うん、うん、だから、だから逆、逆かな、逆なんじゃないかと

JF5：

#### (4) 情報を付け加える

この型の共話では、発話者の意見とは異なり新たな情報が添えられる。事実の陳述による発話連鎖を行うわけである(例17参照)。例18のようにジョークが付け加えられることもある。

<例17：アメリカ人女性EF3と日本人女性JF5の共話> (外国語の発音についての話題)

EF3：多分「ラ」はないかもしれないけど、その、だからその逆は難しいかもしれない

JF5：

EF3：//いっぺん// //ええ/え//え

JF5：//ああ、そう//巻き舌とか//hhh/h//()唇をかむとかなんか上手くできないんですよ、英語は

<例18：アメリカ人男性EM2と日本人女性JF3の共話> (EM2は日本にいと若くいられると話す)

JF3： 日本の一

EM2：僕の海は日本かもしれない そしてアメリカに帰ってすぐにふけちゃうかもしれない

JF3: トランクを開けたらねえhhhh

EM2:

また、例19では「納豆の料理法の情報」を日本人女性 JF1 と中国人女性 CF1 が交換し合っている。JF1 の示した情報に対し、CF1 が新たな情報を付け加え会話が進む。なお、「①JF1 の知っている料理法」「CF1 による作り方の質問」「JF1 による作り方の説明」で第一話題が一区切りするが、さらに「②CF1 の知っている料理法」「JF1 による作り方の質問」「CF1 による作り方の説明」と第二話題が対になって展開する。ここでは新たな情報を添えるという文レベルの共話に加え、後述する話題交換による共話が行われている。

<例19: 中国人女性CF2と日本人女性JF3の共話> (納豆の料理法の紹介)

JF1: ①納豆をお味噌汁に入れて食べる食べ方知ってますか? //知ら//ない

CF1: (•)えっ知ら//ない// それは一作り方

JF1: 作り方っていうか お味噌汁にただ納豆を入れるだけ そうできた

CF1: ええ できたお味噌汁に納豆を入れる

JF1: =と入れちゃうの でもおいしいすごく

CF1: ふーん ②ほんとこの前ちょっと誰に聞いたかわか忘れたけど納豆

JF1: //ほんとに一// えっそれはぱっとうかきま

CF1: をお肉と一緒に炒めて食べたの//うんうん //おいしかったですよ

JF1: =ぜてから やって //えー聞いたことない// //一緒にいためるの//

CF1: そうそうそう うん//かきまぜて //からお肉先に炒めて//納豆入れて//

#### (5) 相手の表現を言い換える

カウンセリングでは相手の発話をいったん引き取り、それを違う表現で言い換える形式のコミュニケーションが行われるが、この会話データでも同様の共話の形態が見られた。JF1 の語るロンドンの建物の様子を CF1 が別の言葉で言い換えている。

<例20: 中国人女性CF2と日本人女性JF3の共話> (JF1 の行ったロンドンの建物の話)

JF1: 建物とかはなんか歴史的に古い建物が多かったような気がしますね。ロンドンの市内のその

CF1:

JF1: =繁華街といわれるような所でもこうなんかかいい建物なの 昔風の建物が(•)たくさん

CF1: うん

JF1:

CF1: 昔風の建物でほんとの昔建てられたとか

## (6) 先取りの回答をする

この先取り回答が文に現れる場合は、例21、例22のような会話の割り込みになる。私たちは質問と応答という、相手の質問が終わるのを待ち、答えるという図式を想像するが、会話ではたびたび例のような割り込み現象が見られる。ここでは、会話への積極的な参与を表わすと解釈し、共話の類型ととらえた。

<例21：アメリカ人女性EF1と日本人女性JF1の共話> (外国語の発音についての話題)

JF1：

EF1：大体4年ぐらい。普通の大学だから。私はちょっと早くに卒業した

JF1：ちょっと早く卒業することもできるん

EF1：難しいけどできますね

<例22：中国人男性CM3と日本人女性JF5の共話> (ロボットの動かし方について)

JF5：

CM3：あのようなラジコンみたいな操縦じゃなくて、そのままスタートしたらあのロボット自動的に

JF5：えじゃ操縦しないでもうプログラムかなんかを//組んでお//いて

CM3：やるの //そうそう// マイクロコンピュータ、

JF5：

CM3：マイクロの中にプログラム書き込んでそれでいるのセンサーについて、あのもう同じ。

## 5 異文化コミュニケーション場面に見られる共話の類型Ⅲ

### －発話行為方略などをストラテジーとして用いる共話

共話では、先取り発話による同時想起を示したり、共感を表現することで、会話への協力が示されるが、それ以外にも、興味を示す質問、励ましや誉め、謙遜表現に対する否定など、より積極的な発話行為により相手との協調関係を志向する共話の類型が観察される。

#### (1) 興味を示す質問をしたり、発話に対する関心を表現する。

この方略は、教師と学生の対話など日常の会話でもよく観察される。話し手の発話に聞き手が関心を示すことで、さらに話し手の発話を引き出す方略である。異文化コミュニケーション場面であるが、例23では、中国人男性CM2が「隣の方カタカナ、カタカナがついているものですか？」と、日本人女性JF3

が持っていた中国語の会話の本について質問している。

<例23：日本人女性JF3と中国人男性CM2の共話> (JF3が使った中国語会話の本の話)

JF3：ニーハオとシェーシェーぐらいしか言えなかったんですけど。だから向こうは会話集を

CM2：

JF3：＝ 見ながら で、こう//なぞって// そうそう

CM2： あー //隣の方//カタカナ、カタカナがついているものですか？

また、例24では日本人女性 JF1 の発話に中国人女性 CF1 が積極的に関心を示している。例25も同じような場面だが、中国人男性 CM3 は日本人女性 JF5 の発話に興味を示さないため、話題は広がらずにそこで途切れている。

<例24：日本人女性JF1と中国人女性CF1の共話> (日本人女性の専門についての話)

JF1：心理学をやってます。 そう面白いと思うんだけど奥が深すぎて

CF1： あっ心理学面白そうね

<例25：日本人女性JF5と中国人男性CM3の会話>

JF5： 私は心理学なんですけど hhhh(・)やっぱり4月から始まるんですか

CM3：今何専攻して あっそう

## (2) 交話的な挨拶を交わす

会話の初めに挨拶を交わしたり、相手を祝福をするという社交辞令の交換も会話データの中に見られた。こうした交話的な発話交換も共話の類型に含められるであろう。例26では会話開始時の挨拶、例27では祝福の挨拶交換が見られる。

<例26：日本人女性JF3と中国人男性CM2の共話> (初対面の挨拶)

JF3：じゃあよろしく//お願いします//

CM2： //はじめまして //よろしくお願いします。

<例27：日本人女性JF4とアメリカ人男性EM2の共話> (就職が決まったことへの祝福)

JF4： はい あっ一応就職というか今度来年から働く

EM2：あのー卒業したら どんな予定ありますか

JF4：＝ところが決まって はい 決まりました

EM2： あっほんと？ もう決まりました？

JF4： ありがとうございますhhh とても大変でしたhhh

EM2：おめでとうございます 大変でしたよ

なお次の例28も例27と同じく日本人女性の就職が決まったことが示された状況であるが、例27で行われたような祝福の交換がなく、会話はぎこちなくとき

れる。そして唐突に挨拶が始まるが、その後日本人女性の「陳健一のチン」という助け舟型の発話が共話を生み出し、会話が円滑に進んでいる。

<例28：日本人女性JF5と中国人男性CM3の会話>

JF3： えあ決まりました (・)すみません田崎です  
CM2：就職決まったんですか？ あそうですか はい？  
JF3： えっともう一回  
CM2：hhhhhチンケイシンと申します チン(・)ケイシン。チンは何というかな。  
JF3：陳健一のチン hhh  
CM2： 陳健一あよく知ってますhhhあの人のそうそうです。同じなんです。

### (3) 励ましの表現を用いる

共話のための方略として、前述したような言語方略に加え、例10の励ましの表現があげられる。例29では日本人女性 JF4 がアメリカ人女性 EF2 の語る就職の不安に対し励ましを表現し、例30ではアメリカ人男性 EM1 が日本人女性 JF4 が数学が苦手という発話に対し、「でも誰でも最中には力があると思う」と励ましの表現を添える。このような方略では、相手の発話を引き出すというより、話し手の消極的な発話内容を、聞き手が励ましによって、評価を中立化し、心地よい発話環境へと引き上げを行っていると考えられる。

<例29：アメリカ人女性EF2と日本人女性JF4の共話> (EF2がいつかは就職をと謙遜する)

EF2：ですから帰ったらあのーそういういろいろインタビューを受けてまhhh何ヶ月たったら  
JF4： hhh  
EF1：わかんないですけどhhhあのーhhhいつか就職できると思いますhhhhh  
JF4： hhh 大丈夫ですよhhhh

<例30：アメリカ人男性EM2と日本人女性JF4の共話> (日本人女性が数学は苦手という)

EM2：割と数学的な場面から(・)あのー見る 勉強する。はい  
JF4： へー へー数学全くダメなんですよ  
EM2：でも誰でも最中には力があると思う  
JF4：=高校からやってないんですよ、うん

### (4) 誉めの表現を用いる

誉めの表現を用いる共話は例31と例32で見られる。例31ではアメリカ人女性 EF1 が「すごい、Wow」という表現を、例32でもアメリカ人男性 EM2 が「あーすごい」と相手を誉める表現を用いている。

<例31：日本人女性JF2とアメリカ人女性EM1の共話> {JF2の兄の大学の話}

JF2：うちの兄がなんかすみません去年去年あ去年じゃないえっと大学3年生の時にあのオレゴンの

EF1：

JF2：=大学にあの語学研修に//夏休みに//W大なんですけれども兄は //そうhhhそう//なんです

EF1： //ああー // すごい//hhhh Wow//

<例32：日本人女性JF4とアメリカ人男性EM2の共話> {JF4の専門分野の話}

JF4： 専門は社会学(•)なんです の、あのー社会福祉をやってて

EM2：専門は何ですか あほんと あーすごい

(5) 謙遜表現とそれに対する否定という、謙遜表現に関わる相互作用を行う。

誉めに対し、それを否定したり、自分の評価を落とすような表現をする謙遜表現は日本人どうしの会話では良く見られる。次の例33では中国人女性 CF3 が謙遜表現を2度用い、例34ではアメリカ人男性 EM1 が誉めに対する謙遜表現を用いている。日本語の会話では儀礼交換的な発話対であるが、共話を円滑に行う機能を持っていると考えられる。

<例33：日本人女性JF6と中国人女性CF3の共話> (CF3が自分の専門分野や日本力を謙遜する)

JF6：何を勉強しているんですか

CF3： あのー情報工学科とかコンピュータのハードウェアとかソフト=

JF6： hhh

CF3：=ウェアとか(•)私もあまり知らないhhh分野ですhhh

JF6：日本語上手ですね

CF3： いやいやそんなことないです

<例34：アメリカ人男性EM1と日本人男性JM1> (EM1はJM1のほめに対して謙遜する)

EM1： あーん2年ぐらい前に来た

JM1：ああいつ日本にいらしたんですか

EM1： それほどでもありませんhhh

JM1：えー日本語お上手ですね hhh

(6) 謝りの表現を用いる

否定表現と同じように、日本語では謝りの表現も共話の生成に関わると言われる。日本人女性は例35で見られるように会話で謝り表現を用いていたが、謝り表現は次の例36のアメリカ人女性の会話にも見られた。この例36の会話では日本人男性にほとんど笑いが見られず、固い雰囲気の中で会話が進められた。



JF3: (・)すみません田崎です

＜例36：アメリカ人女性EF1と日本人男性JM1の会話＞

JM1 :  $\bar{\epsilon}\bar{\epsilon}$ 

さらにより積極的な印象を聞き手に与える、誘いの表現の使われた共話を見てみよう。この会話は初対面の話者どうしの会話であるが、中国人女性 CF1により誘いの表現が用いられている。誘われた日本人女性 JF2 は「あ」と一瞬驚いたようだが、その後は「そうそうそう私も一緒」と積極的な言葉を口にしている。相手に積極的に働きかける誘いの表現の共話を創り出す効果を観察することができる。

JF2: 私はあの砦(・)ってわかるかしら 砦公園//hhそうですhhそうですね//

JF2: 近いかもしれないですね, あっほんとにうれしいなhhhh

JF2:今日はあの一用賀まで 自転車に来て それで後東急線に乗って

JF2：えっと東急に  
あ  
うーんうんうん

JF2: //そうそう私も一緒 //

ここでは、話者が主に発話行為により共話環境を創る働きかけを行う過程を見てきた。初対面の話者どうしの対話という限られた環境での共話を見たが、親しい者どうしの会話ではさらに多様な共話のパターンがあり、「約束」や「申し出」など協調的な会話を創るための発話行為の種類も多く見られることが予測される。

( 33 )

## 5 異文化コミュニケーション場面に見られる共話の類型Ⅳ

### ー共話の連鎖や、話題領域の交換によるディスコース・レベルの共話

ディスコース・レベルで行われる共話として、助け舟型、共話連鎖、共感表現の増幅、共話的な話題交換、先行話題の導入という現象を見ていく。

#### (1) 助け舟による共話

言いよどんでいる相手が発話をしやすいようにしたり、戸惑っている相手の理解を助ける共話である。励ましたり、分かりやすい表現で補佐する発話が見られた。例2で示した、外国語としての発話の修復や訂正も助け舟型の共話に含められるであろう。

この共話は単に二つの文が接合するだけではなく、いくつかの発話交換を経て成立する。そのため、ここではディスコース・レベルの共話に含めた。例37では日本人女性が、例38では中国人女性がそれぞれ助け舟を出している。

<例38：アメリカ人男性EM2と日本人女性JF4の共話>（大学のそばの寺をめぐる話題）

EM2：ええと(・)ええあの一お墓じゃない はいそうです

JF3： お墓じゃないけどなんか記念碑みたいな

<例39：日本人女性JF3と中国人女性CF2の共話>（中国語の難しさの話題）

CF2： ああああ難しい。でもそれはそれはみんな難しいと言ってますよ

JF3：なんかね発音が難しい、すごく

CF2： ウーとウンが区別できない

JF3：すごく難しくってなんかね、なんていうの そうそれもあるし、なんか

#### (2) 共話の連鎖が起こる

共話は一文と一文が接続する単位でとらえられることが多いが、実際の会話では共話が次々と続いていく現象がしばしば見られる。次の例40の共話では、日本人女性（JF1）と中国人女性（CF1）が共感を示しあう、いわば共話の連鎖が創られる。日本人女性（JF1）の「①塩辛はああいう味は好きだから ごはんに合うから」という表現に対し、中国人女性（CF1）は「②うんうんうん」とあいづちを繰り返すことにより、同意を示しながら「③そうですね、ほんとに。あれ食べるとごはん一杯じゃ足らなくなりそうな気がする」と共感を表現する。次に、日本人女性（JF1）はこの発話に「④わかるような気がする

る。納豆もごはんがおいしいって思う」と共感の言葉を添える。さらに、中国人女性（CF1）も「⑤そうですね、ほんとに」と同意を示す。ここでは①の発話に続き、②～⑤共感を示す発話の連鎖が見られるわけである。例41もアメリカ人男性 EM2 と日本人女性 JF4 の間で共話の連鎖が起こっている。これは明らかに話者どうしが協力して、会話を創りあげる共話の一形態とすることができよう。

<例40：日本人女性と中国人女性の共話の連鎖> （ご飯に合うおかずをめぐって）

JF1：塩辛はあいう味は好きだから                      ごはんに合うから  
CF1：                      うんうんうん                      そうですね、ほんとに。  
JF1：                      わかるような気がする。  
CF1：あれ食べるとごはん一杯じゃ足らなくなりそうな気がする  
JF1：納豆もごはんがおいしいって思う  
CF1：                      そうですね、ほんとに。

<例41：アメリカ人男性EM2と日本人女性JF4> （JF4のアメリカ旅行の話題）

JF4：日帰りです                      つらかったですね  
EM2：                      日帰りです。つらいですね                      あまりハイキングなんかができないでしょ  
JF4：ほんと3時間名所だけ見てただ帰ってただけなんです  
EM2：                      うーん、ちょっと大変。それは  
JF4：大変だったです                      あもう忙しくて                      ねえ、よかった  
EM2：                      バックだから                      もう少しのんびりした方が

### (3) 共感表現を増幅させていく

共話を連鎖させていく中で、徐々に共感表現を増幅させていく例42のような会話例が見られた。ここでは会話の進行に沿って、「おいしかった→なんかおいしそう→おいしそうですね。聞くだけでおいしそう→おいしい、おいしい、おいしいよね」と表現が誇張されていく。

<例42：日本人女性JF3と中国人女性CF2の共話の連鎖> （中国料理の話）

CF2：天津、天津の有名なおまんじゅう屋さんがあるの。わざと行ったことあります  
JF3：  
CF2：おいしい                      あのねえなんか豚肉と(・)長ネギの(・)なんか(・)微妙な匂い  
JF3：                      おいしかった  
CF2：                      豚肉と長肉、長ネギのあれがうまいんですよ  
JF3：あーあそうなの、なんかおいしそう

自分で作れないから

CF2：=私も言えないんですけど、おいしいです(・)で、あと酢豚とかもね。ちょっと味が違う。

JF3: でもなんとかね。おいしい、おいしい、おいしいよね。中国料理。

話題領域という概念を設定してみると、私たちは自分の話題について話した時は、次は相手の話題領域に関わるというような話題交換を行うことがある<sup>5)</sup>。ここでは、このような話題交換も共話の一つの類型と考えた。例43では、アメリカ人男性 EM1 の行った長崎の話題、次に日本人女性 JF1 の行った函館の話題、次にアメリカ人男性 EM1 の行った香港の話題というように、話者の関わる話題領域が交互に導入されている。

### ①＜長崎が好きだという話題＞

JF1: 長崎まだ行ったことないんです

JF1：港があって　　情緒がある　　ええ、ええ

EM1: はこだて

### ③<香港の夜景がきれいだという話題>

EM1：僕は夜景が好き香港行ったことある？ //すごくきれい// うんそうすごく//きれい//

JF1: あーないです//100万ドルの夜景// //一度行//きた  
いですよ

＜例44：日本人女性JF3と中国人女性CF2の共話の連鎖＞ （お互いの専門分野の話）

JF6: 何を勉強しているんですか

CF3: あの一情報工学科とかコンピュータのハードウェアとかソフト

JF6 : hhh

CF3：=ウェアとか(・)私もあまり知らないhhh分野ですhhh

(CF3の専門分野に関するいくつかの発話交換のあとで・・)

②<JF6の専門分野，自分でもよくわからないと語る>

JF6：                    今あたしは商学部            通ってるんでなんだかあたしも何をやってるのか

CF3：何を専門ですか                    うーん

JF6：自分でもよくわかってないhhh                    そうですね

CF3：                    あっそうですかhhhえーでも面白いでしょ

JF6：                    興味はある学部のはずなんですけどね            なかなか先生の言ってること

CF3：興味ありますね

JF6：わかんなくて//hhhhhhh//なんか本読んでも            ピンとこないし(・)

CF3：            //うーんそうhhhh//            うー                    うーん

JF6：それでつい(・)なまけて他のことばかりしててhhhh

CF3：                    hhhそうですかふーん

## (5) 先行話題を導入する

別の話題に出た内容を引用するという共話の方略である。私たちも，その会話のかなり前に話された話題，あるいは何回か会った者どうしでは，過去に話された話題を「確か・・だと言っておられましたね」というように導入する。言われた側は相手が自分の何気ない言葉を覚えていたことに驚くとともに，その話題が好感を持ったものであれば，相手が自分の話を長い間受けとめていてくれたことに感謝し，相手に共感を感じるであろう。

例45では，二人はアメリカ人女性 EF3 の日本での住環境が話題になっているが，日本人女性 JF6 はその会話のかなり前に，EF3 が「アメリカの大学は寮が校内にあり，戻って昼寝ができた」と話したことを導入する。その後，明るい笑いが起こっている。

<例45：アメリカ人女性EF3と日本人女性JF6の共話>（別の話題でEF3のアメリカの大学は寮が校内にあり，戻って昼寝ができたと話したことを，JF6が導入する）

EF3：O大(・)にもないんですけど（寮が）えーとあすこ(・)おお大山ですか東武東上線の大山

JF6：

EF3：にあるんですから4つしかないんですけど池袋で乗り換えなければならないしー(・)

JF6：

EF3：歩くことは絶対無理だし。ええええ。だからそれ

JF6：                    ちょっとお昼寝するには遠いですね

EF3：ええそうですhahahだからええいつも図書館で昼寝をしますがけど//ahahahah//

JF6：//ahahahah//

EF3：ええええ

JF6：なんだか机だとな、寝にくいですね

談話レベルで起こる共話として、助け舟型、共話連鎖、共感表現の増幅、共話的な話題交換、先行話題の導入という現象を観察してきた。談話レベルでも、共話が起きていることがわかった。つまり私たちはコミュニケーションに際して、話題や談話という領域を意識しながら、会話を進め、しかも協調的な会話を行う工夫をしているのである。

## 6 おわりに

本稿では会話データを参照に、異文化コミュニケーションにおける様々な共話の形式を次のような4つの観点から探ってきた。

- I 笑い、あいづちやパラフレーズ、オーバーラップにより共感を示す共話。
- II 文レベルでの起こる共話。文の後半をもう一人の話者が引き継ぎ、完成させる一文を共同で創る共話と、推測、共感表現を添える共話がある。
- III 共感を表現する以外の、励ましや誉め、謙遜表現に対する否定など、より積極的な発話行為により相手と協調関係を志向する共話。
- IV 文を越えた、談話レベルで起こる共話。助け舟型、共話連鎖、共感表現の増幅、共話的な話題交換、先行話題導入による共話が観察された。

共話は一つ一つの発話レベルで論じられることが多いが、談話の様々なレベルで起きていることがわかる。また、母語話者だけではなく、日本語を第二言語とする話者も共話の担い手となっていた。さらに、共話のどの形態がいろいろな言語文化圏で共通した現象か、反対にどの形態が文化固有のものかを探る必要があろう。例えば、笑いやジョークの文化差は、その違いが指摘されながらも研究が進んでいない分野である。なお、今回は日本語学習者の共話を観察したが、彼等の共話方略の使用が日本語の会話方略の影響か、母語の会話でも用いられるものかは明らかにできなかった。それぞれの母語話者どうしの会

話を観察することで、共話方略の文化性が見えてくるであろう。

また、親疎を調整するために、調査では初対面の話者どうしの会話データを収録した。共話は親しい者どうしの会話でより多く起こり、また多様な共話の形態が見られると予想される。共話のさまざまな類型を探るには、親しい者どうしの会話データによる共話分析も行わなければならないであろう。これらの問題は今後の課題とする。

#### <注>

- 1) 共話には一文型の共話に加え、黒崎 (ibid.) がとりあげている「文を添加していく共話の型」や「あいづち」「パラフレーズ」「オーバーラップ」「励しや誉め、謙遜に対する否定表現などを用いる」などの言語的方略として共話があげられよう。
- 2) 荻原 (2002) は日本語インタビューにおける‘言いさしー割り込み’の連鎖を観察し、割り込みは力関係を示した攻撃的行為というより、会話を盛り上げたり、強調したり、不明瞭さを無くしたりすることで、会話参加者の役割としてより充実した会話を作り上げようとしていると記している。子供の理科の授業を分析した久保田、西川 (2002) 等は話し合いがうまくいっているグループほどオーバーラップが頻繁に起こり、しかもオーバーラップの90%が協調的なものであったと報告している。
- 3) 私達がコミュニケーションにおいて、どのように共有感覚を確認しあうかについては、理論的には、厳密な意味の共有と、曖昧な意味の共有の二つの理論から考えられている。異文化コミュニケーションの実際の場面では意味の共有の問題が顕在化する。意味の共有過程を観察すると、私達はお互いが厳密に意味を共有できるレベルを調整しあいながら、会話を進めていることがわかる。
- 4) 日本人女性・中国人・アメリカ人の日本語の会話における共話の相違を探った。日本人女性の共話は9つに分類し、外国語話者の共話と比較したところ、外国人話者の共話にも同じ9つのタイプの共話が観察された。さらに、共話を人の話を予測し、先取りする「受容型」、自分の意見や感想をつけ加える「情報添加型」の共話に分け、量的な傾向をみた。日本人女性は「受容型」の共話が多く、中国人女性は「情報添加」の共話が多く見られた。一方、日本人、中国人と比べ、アメリカ人の会話では共話は少なかった。
- 5) 日本人女性が初対面の話者との会話で、相手によって（日本人女性、日本人男性、中国人女性、中国人男性、アメリカ人女性、アメリカ人男性）自分の名乗りの方略をどう変化させるかをみたが、日本人女性どうしの会話に限って「お互いの名を聞きあう」という状況が観察された。他の言語話者との名乗りでは、「名乗り合う」「名乗りと質問のやりとり」という方法が用いられた。

#### <参考文献>

久保田善彦、西川 純 (2002) 「：理科学習における話し合いと意味生成の研究(3) —オーバーラップ

- の機能と発生メカニズムからの考察―」日本科学教育学会発表要旨
- 黒崎良昭 (1995) 「日本語のコミュニケーションー共話について」『園田学園女子大学論文集30-1』
- Levinson, C. S. (1983) "Pragmatics" Cambridge University Press.
- 萩原稚佳子 (2002) 「日本語インタビューにおける「言いさしー割り込み」の連鎖ー対人コミュニケーションの視点からー」異文化コミュニケーション研究第14号
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- メイナード泉子 (1993) 『会話分析』くろしお出版
- メイナード泉子 (1997) 『談話分析の可能性』くろしお出版
- 水谷信子 (1993) 「共話から対話へ」『日本語学 4 月号』明治書院
- 水谷信子 (1995) 「日本人とディベーター共話と対話」『日本語学 6 月号』明治書院
- Sacks, H., Schegloff, E. A. & Jefferson, G. (1974) 'A simplest systematics for the organization of turn-taking in conversation. Language, 50(4),
- 笹川洋子 (2001) 「初対面の話者に対する日本人女性の名乗りの談話方略について」『親和国文36号』神戸親和女子大学国語国文学会, Pp.233-259
- 笹川洋子 (2003) 「異文化コミュニケーションの修復部における意味の共有感覚の調整について」『親和国文38号』神戸親和女子大学国語国文学会, Pp190-214
- 笹川洋子 (2004) 「異文化コミュニケーション場面における共話」『第 6 回香港国際日本研究・日本語教育シンポジウム記念論文集』香港日本語教育研究会編, Pp.66-81
- Tannen, D. (1984)". Conversational style: Analyzing talk among friends" Norwood Ablex